

給水装置の分岐配管工事の手引き

生駒市上下水道部

令和5年4月

[はじめに]

この手引きは、本市の「給水装置工事施行基準」をもとに、「配水管の分岐部から第1止水栓まで」の給水装置を中心として、管種、口径、配水管からの標準的な分岐方法、使用材料等について記載したものである。また、本手引内の第1止水栓とは、宅地内に設置する1つ目の甲止水栓又は仕切弁を指し、分岐とは、配水管への取付口を指す。

1 管種

使用する管種は、分岐・引込管口径 ϕ 20mm又は ϕ 25mmの場合、分岐から第1止水栓（甲止水栓）までは、水道用ポリエチレン1種二層管（PP）を、それ以降からメーターまでは、HIVPを使用するものとする。

分岐・引込管口径 ϕ 50mmの場合、分岐から第1止水栓（仕切弁）までは、配水用ポリエチレン管（HPPE）を、それ以降からメーターまでは、配水用ポリエチレン管（HPPE）、SGP-VB・SGP-VD又はHIVPを使用するものとする。

分岐・引込管口径 ϕ 75mmの場合、分岐から第1止水栓（仕切弁）までは、配水用ポリエチレン管（HPPE）又はGX形ダクタイトイル鋳鉄管を、それ以降からメーターまでは、配水用ポリエチレン管（HPPE）、ダクタイトイル鋳鉄管又はSGP-VB・SGP-VDを使用するものとする。

分岐・引込管口径 ϕ 100mm以上の場合、分岐から第1止水栓（仕切弁）までは、GX形ダクタイトイル鋳鉄管を、それ以降からメーターまでは、ダクタイトイル鋳鉄管又はSGP-VB・SGP-VDを使用するものとする。

ただし、現場の状況によりこれにより難しい場合、上下水道部と協議の上、施工すること。

2 口径

配水管から分岐する給水引込管の口径は、原則として、分岐する配水管の口径より小さい口径とする。また、給水引込管の最小口径は、 ϕ 20mmとする。

3 配水管からの分岐方法

配水管からの分岐は、分岐・引込管口径 ϕ 20mm又は25mmの場合、サドル分水栓によるものとする。

分岐・引込管口径 ϕ 50mmの場合、不断水割T字管（副弁付）とする。ただし、配水管の口径が ϕ 100mm以下の場合は、中口径サドル分水栓（A型ボール式）を使用することができる。

分岐・引込管口径 ϕ 75mm以上の場合、不断水割T字管（ソフソール仕切弁付）によるものとする。

ただし、現場の状況によりこれにより難しい場合、上下水道部と協議の上、施工すること。

4 給水装置の配管材料等

上下水道部の承認する別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用するものとし、別図「給水装置標準配管図」により施工すること。なお、第1止水栓2次側以降については、JWWA（日本水道協会規格）、JIS（日本工業規格）、JDPA（日本ダクタイトイル鉄管協会規格）、PTC（配水用ポリエチレンパイプシステム協会規格）の材料を使用するものとする。

ただし、現場の状況によりこれにより難しい場合、上下水道部と協議の上、施工すること。

分岐給水引込管口径・管種・分岐方法等

メーター口径 (mm)	分岐・引込管 口径(mm)	分岐方法	分岐部継手	使用管種(分岐～第1止水栓)	第1止水栓 1次側継手	第1止水栓	使用管種(第1止水栓～メーター)
φ13	φ20	・サドル分水栓	・PP分止水栓用	・水道用ポリエチレン1種二層管 (PP)	・PPメーター用 又は60°ベント	・甲止水栓 ※ボックスは 止水栓ボックス	HIVP
φ20							
φ25							
φ40	φ50	・不断水割T字管(副弁付) ・中口径サドル分水栓(但し、配水管φ100mm以下の場合に可能)	・EFフランジ短管(GF形)又はフランジ短管(GF形)[不断水割T字管とHPPEとの継手] ・EFスクリージョイント(ユニオンソケット)[中口径サドル分水栓とHPPEとの継手]	・配水用ポリエチレン管(HPPE)	・EFフランジ短管(GF形)又はフランジ短管(GF形)[HPPEと仕切弁との継手]	・仕切弁 (ソフトシール不可) ※ボックスは レジンコンクリート規格	SGP-VB・VD、HIVP
φ50							HPPE、SGP-VB・VD、HIVP
φ75	φ75	・不断水割T字管 (ソフトシール仕切弁付)	・EFフランジ短管(GF形)又はフランジ短管(GF形)[不断水割T字管とHPPEとの継手] ・GX形短管1号(GF形)又はGX形短管2号(GF形)[不断水割T字管とGX形ダクタイル鋳鉄管との継手]	・配水用ポリエチレン管(HPPE) ・GX形ダクタイル鋳鉄管	・EFフランジ短管(GF形)又はフランジ短管(GF形)[HPPEと仕切弁との継手] ・GX形短管1号(GF形)又はGX形短管2号(GF形)[GX形ダクタイル鋳鉄管と仕切弁との継手]	HPPE、ダクタイル鋳鉄管、SGP-VB・VD	
φ100以上	φ100以上	・不断水割T字管 (ソフトシール仕切弁付)	・GX形短管1号(GF形)又はGX形短管2号(GF形)[不断水割T字管とGX形ダクタイル鋳鉄管との継手]	・GX形ダクタイル鋳鉄管	・GX形短管1号(GF形)又はGX形短管2号(GF形)[GX形ダクタイル鋳鉄管と仕切弁との継手]		ダクタイル鋳鉄管、SGP-VB・VD

※配水管の分岐部から第1止水栓(甲止水栓・仕切弁)については、生駒市上下水道部の承認する別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。
 なお、第1止水栓(甲止水栓・仕切弁)以降については、JWWA(日本水道協会規格)、JIS(日本工業規格)、JDPA(日本ダクタイル鋳鉄管協会規格)、PTC(配水用ポリエチレンパイプシステム協会規格)の材料を使用するものとする。

※φ50mmのメーター前後の継手について、使用管種がHPPEの場合は、上水フランジ及びEFスクリージョイント(オネジソケット)を使用のこと。

※φ75mmのメーター前後の継手について、使用管種がダクタイル鋳鉄管の場合は、短管1号(形式1RF形)又は短管2号(形式1RF形)を使用のこと。

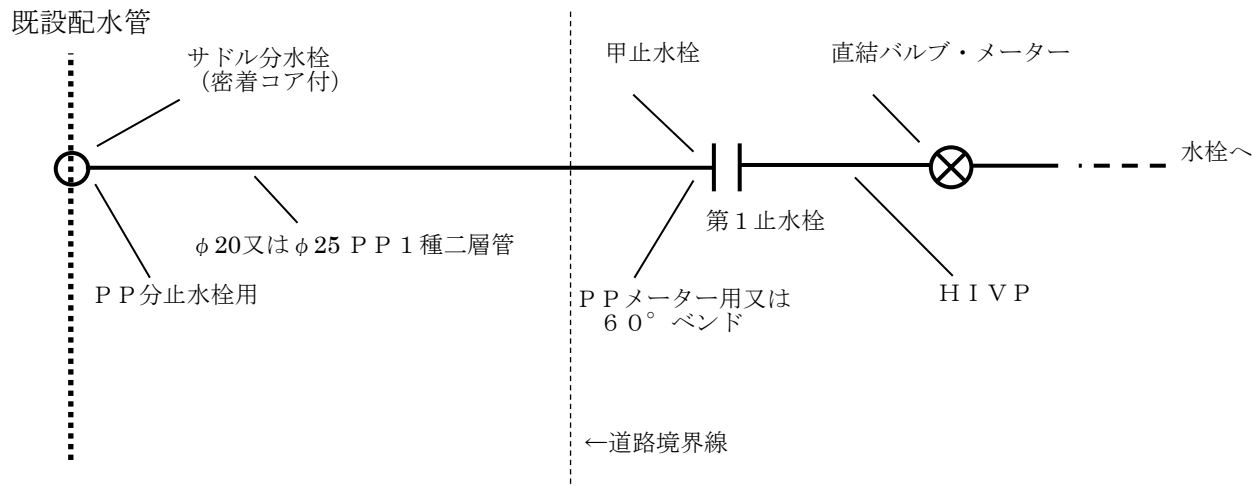
また、使用管種がHPPEの場合は、EFフランジ短管(形式1RF形)又はフランジ短管(形式1RF形)を使用のこと。

※φ100mm以上のメーター前後の継手について、使用管種がダクタイル鋳鉄管の場合は、短管1号(形式1RF形)又は短管2号(形式1RF形)を使用のこと。

給水装置 標準配管図【PP】

(※配管材料については、別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。第1止水栓以降はJWWA、JIS、JDPA又はPTC規格の材料を使用のこと)

[メーター口径 $\phi 13 \cdot 20 \cdot 25\text{mm}$ の場合]



※サドル分水栓には、密着コアを使用すること。

※サドル分水栓～甲止水栓間は、ロケーティングワイヤーを布設すること。また、道路部分は、下層路盤と埋め戻し土の間(道路面の約30cm下)に埋設明示シートを布設すること。

※メーター口径 $\phi 13\text{mm}$ の場合、給水引込管口径は $\phi 20\text{mm}$ で行い、第1止水栓2次側で $\phi 13\text{mm}$ に口径を変更すること。また、 $\phi 13\text{mm}$ メーター2次側には、伸縮管を使用すること。

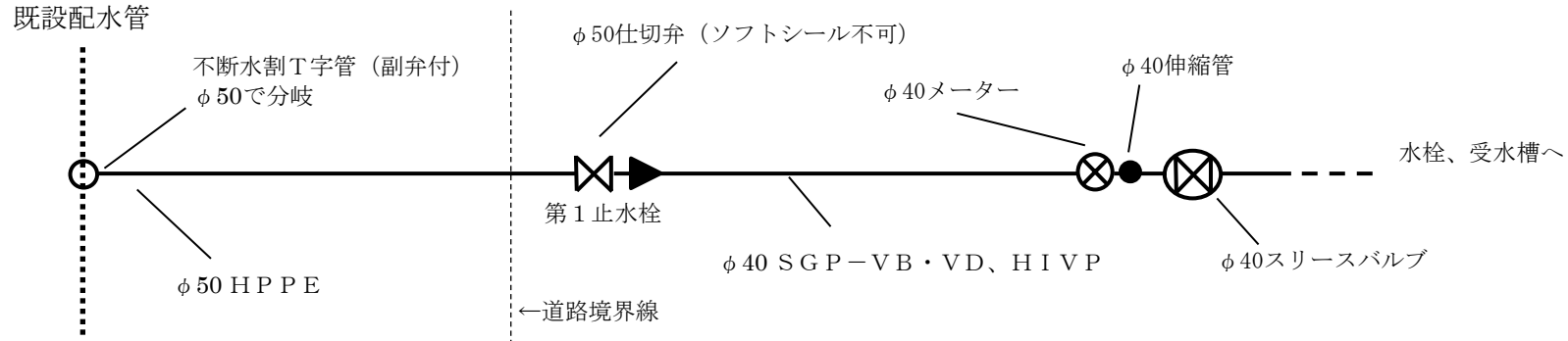
※第1止水栓は、原則敷地内に設置すること。

給水装置 標準配管図【HPPE】

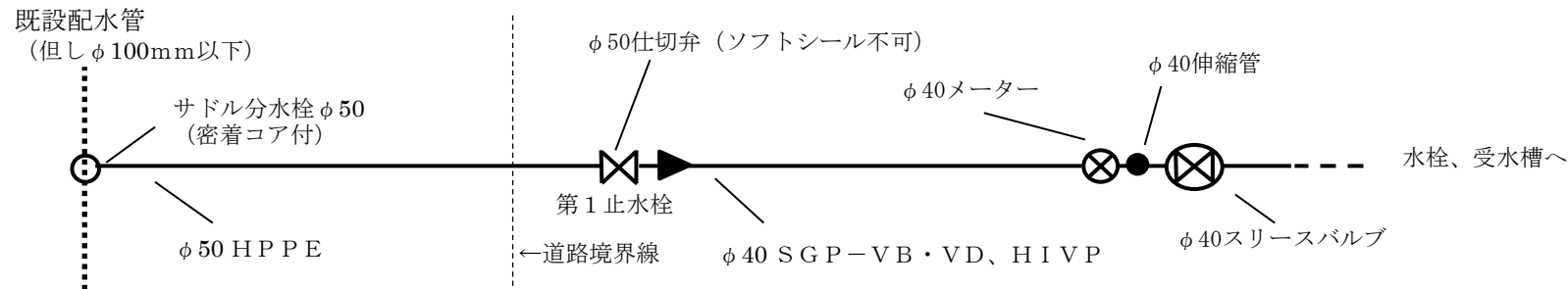
(※配管材料については、別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。第1止水栓以降はJWWA、JIS、JDPA又はPTC規格の材料を使用のこと)

[メーター口径 $\phi 40\text{mm}$ の場合]

○ 不断水割T字管(副弁付)での分岐の場合



○ 中口径サドル分水栓での分岐の場合



※給水引込管口径は $\phi 50\text{mm}$ で行い、第1止水栓2次側で $\phi 40\text{mm}$ に口径を変更すること。

※第1止水栓ボックスにはレジンコンクリート規格、スリースバルブボックスにはレジンコンクリート規格又はコンクリート規格を使用のこと。

※配水管分岐部～第1止水栓(仕切弁)間は、ロケーティングワイヤーを布設し、管明示テープを1mごとに管に巻き付けること。また、道路部分は、下層路盤と埋め戻し土の間(道路面の約30cm下)に埋設明示シートを布設のこと

※メーター2次側には、伸縮管を使用すること。

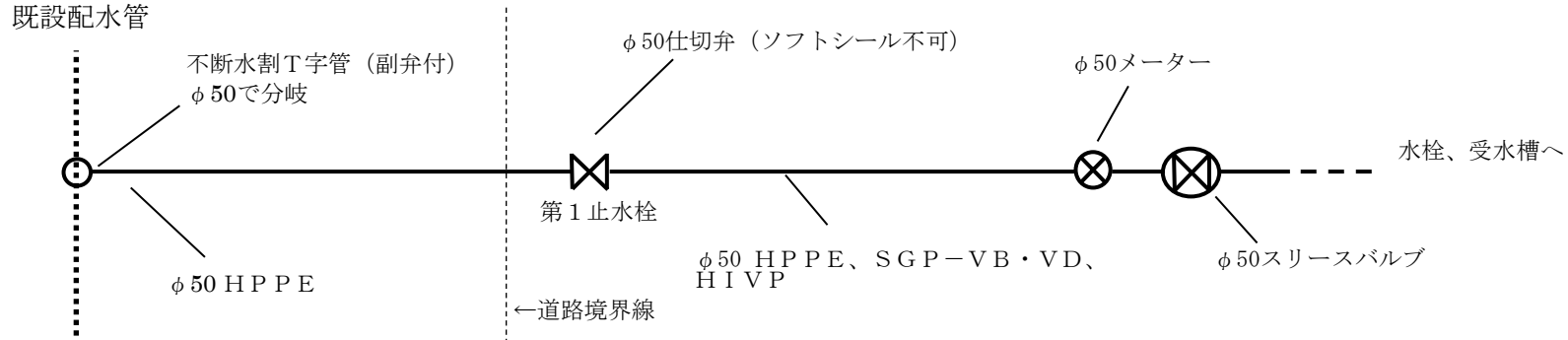
※第1止水栓は、原則敷地内に設置すること。

給水装置 標準配管図【HPPE】

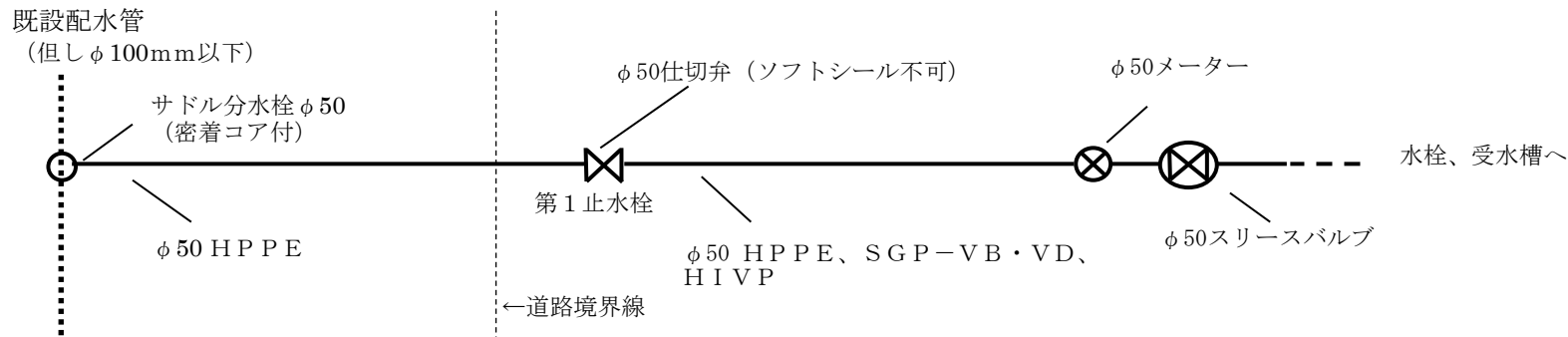
(※配管材料については、別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。第1止水栓以降はJWWA、JIS、JDPA又はPTC規格の材料を使用のこと)

[メーター口径 $\phi 50\text{mm}$ の場合]

○不断水割T字管(副弁付)での分岐の場合



○中口径サドル分水栓での分岐の場合



※第1止水栓ボックスにはレジンコンクリート規格、スリースバルブボックスにはレジンコンクリート規格又はコンクリート規格を使用のすること。

※配水管分岐部～第1止水栓(仕切弁)間は、ロケーティングワイヤーを布設し、管明示テープを1mごとに管に巻き付けること。また、道路部分は、下層路盤と埋め戻し土の間(道路面の約30cm下)に埋設明示シートを布設すること。

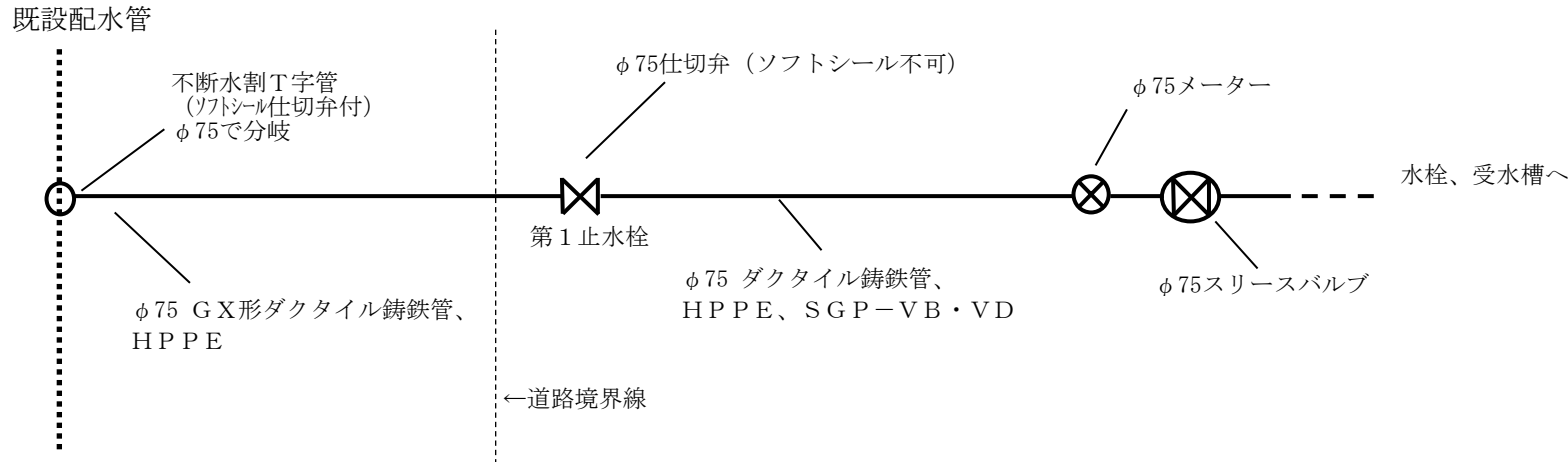
※第1止水栓は、原則敷地内に設置すること。

※メーター $\phi 50\text{mm}$ の前後の継手について、使用管種がHPPEの場合は、上水フランジ及びEFスクリージョイント(オネジソケット)を使用のこと。

給水装置 標準配管図【HPPE・GX形ダクタイル鋳鉄管】

(※配管材料については、別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。第1止水栓以降はJWWA、JIS、JDPA又はPTC規格の材料を使用のこと)

[メーター口径 $\phi 75\text{mm}$ の場合]



※第1止水栓ボックスにはレジンコンクリート規格、スリースバルブボックスにはレジンコンクリート規格又はコンクリート規格を使用すること。

※配水管分岐部～第1止水栓(仕切弁)間は、管明示テープを1mごとに管に巻き付け、ポリエチレンスリーブによる管被覆を行い、ロケーティングワイヤーを布設すること。また、道路部分は、下層路盤と埋め戻し土の間(道路面の約30cm下)に埋設明示シートを布設すること。

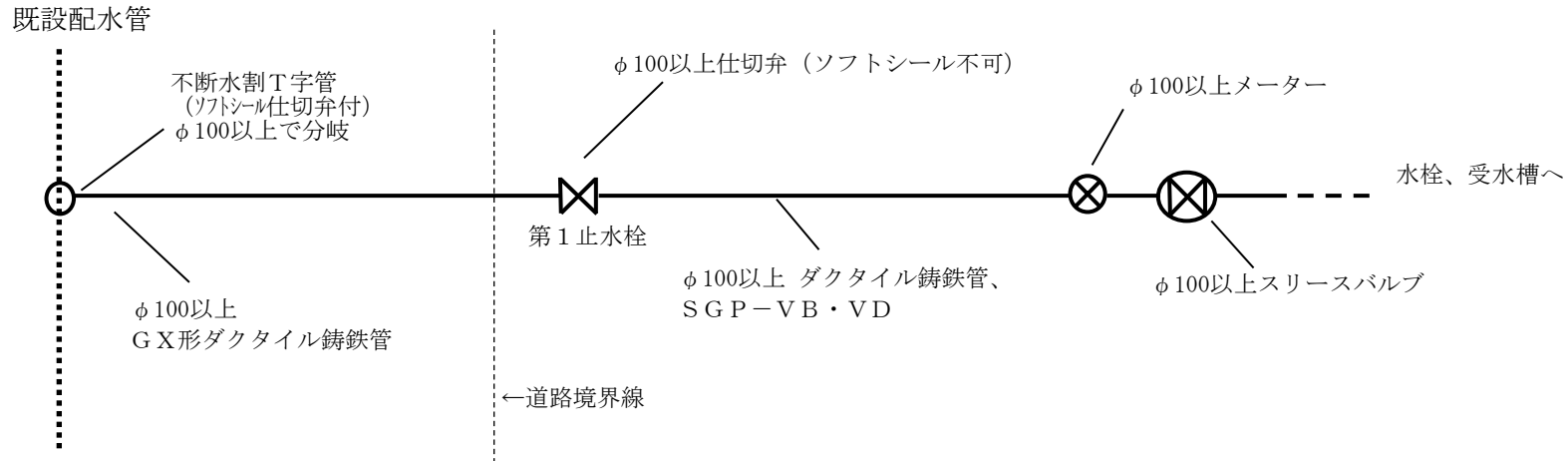
※第1止水栓は、原則敷地内に設置すること。

※ $\phi 75\text{mm}$ のメーター前後の継手について、使用管種がダクタイル鋳鉄管の場合は、短管1号(形式1RF形)又は短管2号(形式1RF形)を使用のこと。また、使用管種がHPPEの場合は、EFフランジ短管(形式1RF形)又はフランジ短管(形式1RF形)を使用のこと。

給水装置 標準配管図【GX形ダクタイル鋳鉄管】

(※配管材料については、別紙「生駒市水道事業使用材料標準規格表」記載材料を使用のこと。第1止水栓以降はJWWA、JIS、JDPA又はPTC規格の材料を使用のこと)

[メーター口径 $\phi 100\text{mm}$ 以上の場合]



※第1止水栓ボックスにはレジンコンクリート規格、スリースバルブボックスにはレジンコンクリート規格又はコンクリート規格を使用すること。

※配水管分岐部～第1止水栓(仕切弁)間は、管明示テープを1mごとに管に巻き付け、ポリエチレンスリーブによる管被覆を行い、ロケーティングワイヤーを布設すること。また、道路部分は、下層路盤と埋め戻し土の間(道路面の約30cm下)に埋設明示シートを布設すること。

※第1止水栓は、原則敷地内に設置すること。

※ $\phi 100\text{mm}$ 以上のメーター前後の継手について、使用管種がダクタイル鋳鉄管の場合は、短管1号(形式1RF形)又は短管2号(形式1RF形)を使用のこと。